

プロジェクト報告書

【締切:プロジェクト終了後1か月以内。もしくは 2010年4月30日】

団体名 NPO 法人 結の会せ

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. プロジェクト名

市民ネットワークによる竹紙作りと竹繊維生産のための基盤整備共同事業

2. プロジェクトの目的とその背景 300文字まで

- 荒廃した竹やぶを美しい竹林に復元する事が期待されています。又、障害のある人たちが地域で安心して生活できる社会を作り出す事が求められています。
- 共に地域の市民が支え手となる必要があります。
- 本プロジェクトは竹林の整備と障害者の作業所の事業拡大を結合する事を背景としており、つなぐものは竹紙です。
- より多くの人々に竹資源の新しい用途としての竹紙を知ってもらい、活動に参加できる様に作業環境整備を行いました。
- 更に、懸案であった竹紙原料の品質改善にも取り組みました。(226文字)

3. プロジェクトの内容 300文字まで

- 竹紙の原料となる竹繊維の生産を継続し生産量が約10%増加した
- 約22アールの竹林の間伐がほぼ終了し、目安とされている1アールあたり約50本の竹林となった
- 女性が参加しても困らないように、簡易トイレを整備した
- 繊維を洗浄する装置を作った。その結果、作業が改善し繊維の品質が大幅に改善した
- 繊維の選別や竹の仕込作業など、障害を持つ結の会の利用者が係わる事ができる仕事が生まれた
- 市民向けに実施した3回シリーズの竹の利用講座は目標を越えた42名の参加者があり成功した。紙漉教室は毎月2回実施し、竹紙の魅力を理解してもらう事ができた。これらの取り組みを通してネットワークが拡大した
- 竹紙の販売枚数が増加した(282文字)

4. プロジェクト実施にあたっての工夫点とその効果 300文字まで

- 竹林内に設置した簡易トイレは内装材に竹紙壁紙を使い市民への壁紙貼り体験を提供する予定
- 講座は竹に関心を持つ幅広い市民に注目される様に竹林管理、竹の繊維生産と和紙作り、竹炭づくりの3講座とした。2つの市民団体の協力が得られ、相互理解も深まった
- その過程で竹をチップにする装置の有効性に気がつき、新しいテーマの発見ができた
- 講座内容の評価は高くオリジナルな市民向け教材作りの素材が蓄積できた
- 活動と講座が市民向けの媒体に取り上げられるよう取り組んだ結果、地域の代表的なタウン紙に取り上げられ、広域からの参加者が得られた
- プロジェクト活動がすまいづくり市民塾の会員増にもつながった
- 東京楽竹団の楽器材料として協力することになった(300文字)

5. 全体的所感、終了しての感想など 300文字まで

- 1年間のプロジェクト活動を通して、竹資源の可能性と竹利用の豊かな伝統を再認識する共に、ネットワークの拡大を実感出来た。
- 竹紙レターセットがカサド国際コンクール公式グッズに採用された事から、竹の利用講座以外にもタウン紙やミニコミ誌で紹介され、結の会を訪れた方もかなりあった。
- 市民と結の会(利用者・スタッフ)とのコミュニケーションが実現し、地域ネットワーク事業としての目標も達成され、構成員のモチベーション向上にもつながっている。
- 地域産の商品として定番化し市場に浸透していくためには、和紙としての品質を向上させなければならない。ユーザ視点を取り入れた改善が今後の課題であり2年目の課題として取り組みたい。(293文字)

6. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動風景の写真を参考資料として提供してください。

参考資料あり・特になし